

「マッハの壁」と「ボカの壁」と「ラテンな子壁」

鍋島 弘治朗

naby@muf.biglobe.ne.jp

http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~english/

たまに、spiral cricketという名前を使っている。経緯はいろいろだがホームページでも使ってるし、螺旋蟋蟀マークのスタンプもあるぞ。さて、いきなりだが、cricketは英語教育のプロではない。プロを「それでお金を稼いでいる人」という意味で使うとすれば、仕事の一部は英語教育だからプロと言えないでもないが、この場合の「プロ」とは、「彼はそろばんのプロだ」とかいった、すごい専門家だ、という意味。英語学習は自分でも中学校のころからそこそこ熱中してやって、会議通訳まで行ったから、セミプロと言えるかも知れない。

ということで、教育メソッドについては得意ではないが、英語を学ぶ人に対するfeel(直感)が生まれたのは、特に3年間通訳講師をしていたころである。このあたりで一番面白いのは、TOEIC 700点台の人である。どうも、TOEICでいうと800点あたりに非常に大きな関門があるように思える。

- ・アメリカ英語の特有の発音に慣れている
(発音:Pronunciation:P)
- ・単語も十分な数知っている
(単語:Vocabulary:V)
- ・会話表現を知っている
(会話:Conversational Expressions:C)
- ・イディオムの構文を知っている
(イディオム:Idioms,I)
- ・構文(文法)を知っている

(Grammar:G)

といった個別の要素はすべて整っているのだが、750点くらいの人と820点くらいの人では天と地ほどの差がある。英語をなめらかに理解できる人(feelがある人)と、ぎこちない人(feelがない人)に大きな差があるのだ。

個々の要素(P,V,C,I,G)の学習法に関しては別所で触れるとして、すべての要素が整っているにもかかわらず、聞き取りができない、あるいは、できる気がしない、途中ですぐわからなくなる、という人がある。これはどうしてか。

先日、オフィスアワーに来たM下君がImpact Grammarの速度(words/秒)について「150くらいですか?」、という質問をしてくれたが、「スピード(処理速度)」というのが前述の問の答えである。つまり、基本要素が整っている人でも、それぞれの処理を一定スピード内で行うことができなければ、意味理解ができない。

そんなの当然ではないか、というかもしれないが、あんまり当然ではない。こういった人に顕著な症状は、私が呼ぶところの「まだら現象」である。例えば、

The intention was very obvious when Saint Nicola slipped a note to Clara regarding the trip to Venice, but people around her did not expect.....

その意図ははっきりしていた.....ベニスへの旅行、しかし.....

てな感じで「訳せる部分」、「訳せない部分」、「訳せる部分」、「訳せない部分」が交互に生じる。もうひとつの特徴は、切って提示してやると問題なく理解できることだ。

The intention was very obvious,
when Saint Nicola slipped a note to Clara,
regarding the trip to Venice,
but people around her did not expect.....

これは、ひとつの文章や句の区切りを処理している時に次の文章がでてきてしまって音声に注意を払う部分と、意味に注意を払う部分が衝突をおこしていると考えられる。というわけだが、この700点台から800点台への壁をどう乗り越えればいいのか？

仮にこの壁を「マッハの壁」と名付けよう。そんなに早くなくてもいいんだが、スピードに関連しているし、この壁を越えれば自由度が得られるということ。で、(よりよい名前を募集します;)。さて、このマッハの壁が、英会話の壁の親玉だとして、それ以前の前提条件が整っていないとここまでいたらない。それらの子分キャラ(壁がすでに擬人化されてる)のうち、「ボカの壁」について述べてみよう。

「ボカの壁」

怠けものさんには相当厄介な壁がこの壁である。ボカ、つまりボキャブラリー(ちなみにボカはvocal(ボーカル)と一緒に語源で「声」という意味である。ちょっと外れるが、vocationというのは職業、「私はXXです」と人に言えるもの、ということだ。ってことは人に言えない職業はvocationとは言えない

な?) 英会話に関しては、単語が一番。単語を知らないとしゃべれないし、聞けないぞ? 単語を知らずに英会話学校に行くのも無駄だぞ? だって言いたいことを表す単語を知らないわけだから。材料なくして料理はできないぞ? 砂ばかりでブローチを作ろうと思っても作れないぞ? ということで単語は必須です。単語に関してはスタンダードなCD付き単語練習帳を購入あるいは押入れの中から出してきて自分の単語在庫を調べましょう。(お奨めの単語本に関してはここでは差し障りがあるのでメールして。本人のレベルによっても違うし) 単語数に関してはいろいろな計算方法があるが、例えば、

1. responsible と responsibly を別語と数えるか
2. response と responsive を別語と数えるか

などによって異なる(上の用語の意味があやふやだった人、もろボカの壁につきあたってますよ)。

ま、というわけで、単語の数え方には異論がいくつかあるが、上述1を同単語、上述2を別単語として(日本語でも「落ちる」と「落とす」や、「掻く」と「掻き出す」(ひっぱりだすという意味で)は別単語ですよ(「走る」と「走りだす」では、後者は、走る+始動の形態語尾「だす」がついたものと考えerでしようが)。

まず、2000語。どんな言語でも2000語ありゃ、だいたいのは言える。2000語なんだよ。2000語。しかも、dogとか、catとか、dishとか、pigとか、youとか、Iとか、boyとか、skyとかぜーんぶ入ってるぞ。

一回、自分が知っている英単語をぜーんぶ書き出してみてもどうだろうか。1000語は簡

単にいくと思うぞ。しかも、書けなくてもいいんだぞ。hambagar (ちょっとスペルミス) でもいいぞ。milk, fried potato, lettuce, tomato, pork, beef, cheese, large, small, medium, マック英語だけで10語以上は余裕で思い浮かぶぞ。次、ミスド。French, lemon, cream, white, red, black, orange, grape, ball, twist, sesame。うーん、ミスドはあまりしらん。行ってみ。きっと30以上の単語が拾えるであらう。今日は天気がいいなあ。sun, sky, cloud, blue, emerald, wind, tree, dogs, bench, couple, lovers... 今日は、雨で悲しいなあ rain, window, sad, dark, sound, hate, no, raincoat, boots, umbrella... ま、ともかくどんな人でも今より最大1000語+程度覚えれば、だいたいの会話はできる。ちょっとおろそかになってる人でも、この程度の単語を確認すればOK。1年365日。ま、一日3個、しっかりやれば、1年でやれるな。単語本を1語1秒でスキニングしていけば1200秒。20分できるよ。わからなかった奴だけマーカー引いて、毎日やっていけばいいんだ。

ところで、ボカの壁の子壁に「ラテンな子壁」というものが存在することをみんなはご存じだろうか。(子壁は「Xな壁」とひとまず「な」を使って表すものとする。が、同時に「子壁」にした) 実は、2000語というのは子供だました。いや、日常会話に2000語あればだいたいOKというのは事実だ。使い方わからなくても意味さえわかればTOEICにはOKというのも事実だ。しかし、インテリジェントな会話をしようと思うともうちょっといるかな。

「ラテンな子壁」

英語はアングロサクソンの言葉に1066 (だよな) 年、Norman Conquestといってラテン系 (といっても陽気だったかどうかは保証の限りではない) の言葉を持ったノルマン人が侵入してできた言語である。つまり、ゲルマン語源とラテン語源の言葉が入り交じっているのである。その関係は日本語と漢字の関係に少し似ている。つまり土着の言葉とちょつとよそ行きの言葉である。死ぬ/死亡する、とdie/deceaseのような感じであろう。進む/前進する、とgo forward/proceed っていう感じもそうか。consist, resist, persist, persecute, institute, reject, rejection, inject, eject, trajectory, admit, submit, transmit, profess, confess, confession, grade, congress, regress, progressive, regression, congressional, satisfy, satisfaction, dissatisfy, dissatisfaction などなどなど。

では、ラテンな小壁をどのように破るか。これはもう、単語分解しかないね。

形態素に分ける。で、形態素にも少なくとも2種類ある。-ive, -al, -ityのように、形容詞化語尾、名詞化語尾など、品詞に関わるもの。それから、pro(前に) ject(投げる) など、語源と意味に関わるものだ。

ま、それぞれの単語の構成要素である形態素がわかれば、単語に関する理解が大変進むことは間違えなからう。あとは企業秘密であるから、cricketに直接聞くように。